

# 図書だより

平成30年9月21日  
秋田県立視覚支援学校  
図書委員会発行  
No.4

## 秋の夜長に本はいかが？



2学期がスタートして3週間余り。朝夕の涼しさや、吹く風のさわやかさに秋を感じる頃となりました。日没も6・7月に比べると1時間半も早くなり、夜ゆっくりした時間もてるようになりました。さて、秋の夜長に何をする？  
今月は、本校の鈴木校長先生に次の文章をお寄せいただきました！

### 「詩の本のすすめ」 校長 鈴木修一

高校の教科書に登場した詩や俳句に接し、いつか自分でも人に感動を与える作品を書きたいと思ったことが、今につながっていると感じます。「コスモスを離れし蝶ちょう たにに谿深しみずはらしゅうおうし 水原秋桜子」など、記憶に鮮明です。

学校図書館で名著を見つけました。

#### ① 『詩の世界』 高田敏子（ポプラ・ブックス）

表紙の写真は昭和そのものですが、掲載の詩は全て時代を超える名詩ぞろいです。「道すに捨てられた子ネコも／抱だきあげてなでてしまうと／そのまま道におくことはできなくなる／なめらかな あたたかな／いのちの手ざわ触り／小さな鼓動こどうまでが／伝わってきて（子ネコ）」この自作詩の評を、高田さんは「さびしさに負けないで、さびしさを生かす人になりましょう。」と結んでいます。中学・高等部の皆さんにおすすめの内容です。

#### ② 『少年少女のための日本名詩選集・14 八木重吉やぎじゅうきち』（あすなろ書房）

金子みすずの人气が高まる前、注目度の高かった詩人です。作品と鑑賞文を見開きに収め、とても読みやすい本で、先生方に特におすすめ、小学部の皆さんも自力で読めると思います。「秋になると／果物くだものは何もかも忘れてしまって／うっとり実みってゆくらしい（果物）」「何もかも忘れてしまって」と書く詩人のひたむきでくもりのない心……。

だれもが心の目を開く秋という季節、詩を読み、詩からもらった感動を自分にひびかせて、詩を書いてみませんか。



# 図書委員によるおすすめの本コーナー

## 今月は、専攻科理療科3年の H. T. さんです！

### 「銀河鉄道の夜」

みやざわけんじ

宮澤賢治 著（角川つばさ文庫）



主人公のジョバンニは、アルバイトをしながら病弱の母と二人暮らしをする少年です。

ケンタウル祭の夜に、丘の上の天気輪<sup>りん</sup>の柱の下に横になり夜空を眺めていた時に、不思議な声と明るい光に包まれ、気が付いた時には、幼馴染<sup>おさななじみ</sup>のカムパネルラとともに、夜空に浮かぶ銀河鉄道に乗車していた・・・。

旅の途中、大学士や鳥を捕る人などに出会う冒険のお話です。

著者 宮澤賢治は岩手県出身の童話作家です。大人でも楽しめる童話として、表題の「銀河鉄道の夜」の他に、「詩 雨ニモマケズ」「グスコブドリの伝記」「ふたごの星」「よだかの星」が1冊の本に収録されています。

秋の夜長に星空を思い浮かべながら、賢治ワールドの旅をしてみたいですか・・・。

【宮澤賢治】1896年（明治29年）～1933年（昭和8年）。詩人、童話作家。岩手県立花巻農学校で教師をしながら、仏教信仰と農民生活に根ざした創作を行った。

【注】「天気輪の柱」・・・賢治の造語。何を指すか、定説はないようです。

★図書室に、拡大図書「風の又三郎」「注文の多い料理店」があります。点字版では、「セロひきのゴーシュ」があります。ご利用ください。



### 【図書室に入った“寄贈本”の紹介】 ※カッコ内は寄贈して下さった方

◆点字「ゆったり点字版 一行怪談<sup>かいたん</sup>」吉田悠軌 著（以下3点は、日本ライトハウスより）

「ゆったり点字版 人生に役立つ都々逸読本<sup>どどいつ</sup> 七・七・七・五の法則」柳家紫文 著

「ゆびでたどるめいろ オットット編」畑中優二 編

◆点字・活字「視覚障がい児・者 競技用百人一首かるたセット（全日本かるた協会より）

◆点字「ヒットソング 30」（藤枝光文庫より）

◎活字「大国主と国譲り 倭の国から日本へ3」阿上万寿子 著（山口県盲人福祉協会より）

◎活字「幸せの入り口屋 いらっしゃいませ」西亀 真 著（著者より）

（※盲目のセラピスト：西亀さん〈61歳〉は、47都道府県を一人旅、さらに、ニューヨークへの旅も実現させました。自身の体験をふまえ、カウンセリングや講演活動を行っています。）